

【様式第5号】

諏訪湖イベントひろば基本計画(案)パブリックコメントにおけるご意見と市の考え方

整理番号	計画・条例(案)の該当箇所		意見の概要	市の考え方	対応区分
	ページ	項目			
1	87	第4章ひろば活用の基本的な考え方 4-5建屋の取扱いパターンの比較 建屋の取扱いパターンの比較	建屋の取扱いパターンの比較、建屋の新築について、イベントスペースはその後の運営が難しいと思います。現在の使用状況も決して多い稼働とは言えないのではないのでしょうか。三条の地場センターや鶴岡の例をHP等で見ましたが、観光や研究施設など特色を出し、また関係の強固な連携、学校(高校や大学など教育機関)との連携がみえているところが鶴岡は素晴らしいです。今後しっかりソフトを固めての計画にして頂きたいと思います。	イベントスペースについては、地方都市において首都圏と同等の利用状況は見込めないことは事実です。そんな中で、建屋は3,000㎡を上限とするとしておりますが、年間を通じた活用や維持を考慮して設定しております。なお、建物を建てて完成という事業ではありません。特に産業振興機能については、ご指摘いただいているとおり、しっかりとソフトを固める必要があると認識しております。	B
2	21	第2章前提条件の整理 2-6建屋の利用実態	現在の建屋で市民が無償で使っている例があります。スポーツの練習、作業等新しい建屋になると無償では貸していただけないでしょうから、逆に市民離れが起きるのではと想定します。できれば市費の投入が少しでも少なくなることを望みます。	現時点で建屋は暫定的に利用しております。施設整備をした場合には、今までのような使用が難しくなるケースもありますし、利用料も相応のものをいただくことになると想定しています。市費の投入については、年間を通じた活用頻度や活用内容を踏まえて上限3,000㎡を基準に施設規模と施設機能の検討及び設定をしていきます。過剰な設備投資とならぬよう、引き続き検討をまいります。	B
3	113	第9章今後の方針	今後の方針について「ひろばから文化センター上諏訪駅西口にかけてのエリア活用検討が住民と市との共同により開始されます」とあります。これはどのようなものなのか、現在わかる範囲で教えてください。	今年度から来年度にかけて上諏訪駅西口を中心とするまちづくりの将来ビジョンを策定していく予定です。これについての手順は調整中であり、今までのような活動は諏訪湖イベントひろばへの自発的関与の可能性のある地元事業者や住民の把握にもつながると想定しています。ひろば周辺に関わる動きも把握し、具体的公募条件等の設定につなげていく予定です。	C
4	113	第9章今後の方針	跡地の隣にある文化センター敷地内の市の公民館、カルチャーホーム、図書館、保健センターの整備計画が現在示されていません。特に公民館、カルチャーホームの老朽化ははなはだしく、間取り等も現在の市民文化活動には合わなくなってきているように思えます。こちらもしっかりと方向性を出していただき、ひろばとの連動やもしくは文化施設をひろばに移転させる、駐車場を確保する等考えてもらいたいです。跡地との関係性をここできちんと示してもらいたいです。	文化センターエリアの施設についても老朽化しており、今後の在り方の検討が必要となっております。諏訪湖イベントひろばと隣接するエリアであることから、相互利用等の可能性を踏まえた検討をしていく必要があります。現在は、文化センターエリアで実施するイベント等に対応するため、諏訪湖イベントひろばの一部を駐車場として利用しておりますが、文化センターエリアとの関連についても、検討していくべき課題と認識しております。現時点で、具体的相互活用が検討されていないことから計画への記載は難しいですが、整備計画策定に向けて考えの整理をしていきます。	B
5	74	第4章ひろば活用の基本的な考え方 3-2産業振興機能の提供サービス例	産業振興機能の提供サービス例について、産業振興機能の中に市役所の産業連携推進室を入れたらどうか。企業との密な連携が取れるのでは？	現在サービス一覧については、行政機関以外を対象とした一覧となっております。諏訪市が直接提供するサービスを掲載しておりません。しかしながら、産業連携推進室を含めた経済部においては多くの面で民間事業者と協働による事業を既に実施しております。諏訪市産業関連部局の入居は現時点で未定であります。他の支援機関と協力し、横展開を含めた産業振興の実現を視野に入れていきます。	B
6	77	第4章ひろば活用の基本的な考え方 3-3産業振興機能の特徴及びサービス提供にあたり重視するポイント	プロデューサーとはどのような人材を想定しているのか？先行事例はありますか？また、市費で雇用することになるのでしょうか。	産業振興プロデューサーについて、現時点で想定する特定人材はありません。しかしながら、産業振興機能の集積を図るうえで、単なるテナントの集結に留まらない連携した効果を発揮するには、その力をとりまとめる人物が必要と考えております。雇用形態等も未定であります。引き続きどのような方が適任かを含め検討していきます。	B

7	66	<p>第3章市場調査 2-6調査結果の概要 ②施設内容について (カ)導入が考えられる民間施設の機能・規模等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・B社の温浴施設は初期投資もかかりすぎ周辺にも既存施設があるため目新しさがない ・C社のホームセンターもすでに市内にはいくつも既存施設があり飽和状態である ・D社の賑わい拠点施設という大雑把な提案は提案とは呼べない ・A社とE社の案は似ている部分が多いので共同で開発してもいいのではないかと 	<p>ここに掲載している内容は、サウンディング調査参加企業による提案の取りまとめであり、民間資金による開発の可能性のあるものについて提示しております。この提案内容5択から単純に案を採用するものではありませんが、より具体的内容検討にあたっての参考になるものと考えております。また、1社に限らず共同での参画という方法も手法の一つであると想定しています。</p>	B
8	67	<p>第3章市場調査 2-6調査結果の概要 ③事業スキームについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業、地元住民の事業参画がマストではないか ・総合プロデューサーを立て、地元企業または地元住民が担うべきなのではないか 	<p>P113の今後の方針に「地元の自発的関与を実現するための手法や条件についても引き続き検討していきます。」と記載をしているとおり、地元企業や住民の参画も大きな力として期待し、想定をしているところです。なお、「自発的関与」と表現しているとおり、要望に留まらず、自らが諏訪湖イベントひろばを舞台に事業を実施していく、参入するという意欲的な関与を期待しております。また、総合プロデューサーに関しても、行政機能と民間機能を結び付けるとともにひろば全体をまとめ上げる機能であると理解しております。今後具体的に設置の必要性を検討して参ります。</p>	B
9	67	<p>第3章市場調査 2-6調査結果の概要 ③事業スキームについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までによくある地方創生という文脈ではなく、グローバルな視点で商業エリアと捉えて開発を検討すべきではないか(諏訪工業メッセも国外を参考にすべき) ・諏訪工業メッセも、世界最先端のSonar Fes、Ars Electronica、SXSWなどの展示会を参考に企画制作していかないと時代にとんどん取り残されていく恐れがある 	<p>諏訪圏工業メッセについては、現在約10,000㎡の建屋を全面的に使用して開催しており、国内における最大規模の専門展示会として諏訪圏の企業の持つ技術力発信の一役をこなしてきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症感染拡大を機に、新たな開催方法を含めた、新たな産業振興の手法を検討していく場面にあります。同時に現建屋についても、3,000㎡を上限としたことで、規模を含めた開催手法の検討が必要不可欠です。実行委員会事務局に対しても情報共有をし、時代に沿った効果的な産業振興手法について引き続き検討して参ります。</p>	B
10	67	<p>第3章市場調査 2-6調査結果の概要 ③事業スキームについて</p>	<p>総合プロデューサーの役割を担う地元企業、地元住民は必須のように思う。岩手県のおガールのように、公民連携の手法での成功モデルとして諏訪市も挙げられるようなプロジェクトにして欲しい。</p>	<p>P113の今後の方針に「地元の自発的関与を実現するための手法や条件についても引き続き検討していきます。」と記載をしているとおり、地元企業や住民の参画も大きな力として期待し、想定をしているところです。なお、「自発的関与」と表現しているとおり、要望に留まらず、自らが諏訪湖イベントひろばを舞台に事業を実施していく、参入するという意欲的な関与を期待しております。また、総合プロデューサーに関しても、行政機能と民間機能を結び付けるとともにひろば全体をまとめ上げる機能であると理解しております。今後具体的に設置の必要性を検討して参ります。岩手県紫波町の事例であるおガールについても、事例として全国の自治体が把握しているものと存じます。諏訪市においても諏訪湖イベントひろばを舞台とする成功モデルとなるよう引き続き検討を続けていきます。</p>	B
11	111	<p>第7章事業スキームの検討</p>	<p>どの事業手法を利用するにしても、今後他県や市に成功事例として真似してもらえよう、計画段階を含めた手続き、資金の流れを可視化、透明化をして欲しい。</p>	<p>諏訪湖イベントひろばの活用は民間活力の導入を念頭に置いておりますが、民間の役割、公共の役割を明確にし、その上で、資金の流れ等は可視化、透明化することは必須であると考えます。</p>	B

12	34、70	<p>第2章前提条件の整理 4.市民意向</p> <p>第3章市場調査 3.やりたいこと提案募集(市民向け)</p>	<p>市民意向として2016年に実施した公共施設に関する市民アンケートを引き合いに出しているがこれは東バル跡地を想定した調査ではない。またp.70のやりたいこと提案募集はどのような意見が出たのか記されていない。2020年度に実施した市長との懇談会も市長の進め方があまりにもひどく市民の声を聞く場ではなかった。今回の計画は市民を無視した計画である。市民の声を聞いて計画化することが必須であり、あと3年以上かけ、市民との対話を50回開催することが必要である。</p>	<p>やりたいこと提案募集の具体的な内容については、提案した個人が特定される表現があることから公表しておりませんが、コンセプトや計画の考え方に関するもの、自らやりたいということではなく「作って欲しい」という整備要望と捉えられるもの、コワーキングが整備されたらこのような事業を実施したいというもの、建屋で敷地を全て埋めるのではなく空間の活用を考えて欲しいというもの、グループで検討しており今後更なる提案をしていきたいというもの等がありました。今回提案いただいた方々については、今後ひろばで自ら事業を実施する担い手の候補としても把握しております。</p> <p>今後の方針でも、民間活力導入の可能性を探っていくことを記載していますが、民間事業者や住民自らが事業を行うことが重要と考えているとともに、地元の自発的関与の重要性は認識しています。</p> <p>行政主導による市民との50回に及ぶ市民との対話を開催する予定はありませんが、自発的関与の意向のある地元担い手による検討は内容を把握し、実現の可能性を探る必要はあると考えます。</p>	B
13	73	<p>第4章 ひろば活用の基本的な考え方 3.基本コンセプト</p>	<p>基本コンセプトの見直しが必要である。産業振興を軸にするなど時代錯誤も甚だしい。産業振興は民間に任せ、少子化・高齢化が進み、気候変動により生活基盤への危険性が増す将来を見据えて、自立した強靱な生活基盤を作ることが行政の役割である。</p>	<p>現在諏訪市の基幹産業は工業であり、その仕事が諏訪市、そして市民の生活を支えています。仕事が人を呼び、人が仕事を呼ぶ、それがまちの活力、生活基盤強化につながります。将来に向けた強靱な生活基盤強化を実現するためには、それを支える仕事の充実が必要となります。各社における企業努力も必要となりますが、それを加速化する、中小企業同士をつなぐ、地域として販路開拓を実施するためには行政の取組は必要不可欠と考えます。</p> <p>また、本計画においては産業振興を軸として他の分野との相乗効果による新たな価値創造も視野に入れていきます。観光、介護、医療、環境等の分野と技術との連携による新たな価値創造により、結果的に強靱な生活基盤につながる可能性もあるかと想定します。</p>	B
14	105	<p>第6章 施設配置計画 2.施設配置パターン</p>	<p>駐車場があまりにも広すぎる。駐車場面積は現案の1/10あれば十分であり、9/10は森にするべきである。諏訪市街地には緑が少ないので、将来には複層の混合林となる森を作っていくことが必要と考える。将来に必要なものは車ではなく森である。</p>	<p>駐車場については、この計画により面積を確定したわけではありませんが、イベント時の仮設会場、仮設建屋による暫定利用、災害時の活用等、緑地帯と合わせての空間活用も考えています。また、ひろばすべてを建物で埋めるのではなく、建物の無い空間の活用にも価値があると考えます。</p> <p>また、市がひろばの9/10を森として整備する考えはありません。ただし、民間参入領域において、木を活用した提案があれば可能性はあるかと想定します。</p>	B
15	67、111、113	<p>第3章市場調査 2-6調査結果の概要 第7章事業スキームの検討 第9章今後の方針</p>	<p>地元企業が代表企業となる事で、観光客を中心とした市街の人たちの興味関心を得られ、意義のある場所になっていくのではと思います。地元企業または地元住民が中心を担ってプロデュース出来ていった方が、個性のある持続可能なエリアになっていくのではないかと思います。</p>	<p>今後の方針に「地元の自発的関与」という言葉を入れているとおり、地元の方に興味を持たれ、地元の方が関与することは重要と考えています。なお、「自発的関与」と表現しているとおり、要望に留まらず、自らが諏訪湖イベントひろばを舞台に事業を実施していく、参入するという意欲的な関与を期待しております。</p> <p>また、総合プロデューサーに関しても、行政機能と民間機能を結び付けるとともにひろば全体をまとめ上げる機能であると理解しております。今後具体的に設置の必要性を検討して参ります。</p>	B

16	-	全般	<p>これほどの広大な土地を利用した公共事業に対して、いち住民、人間としてコメントさせて頂きたいです。これは諏訪だけではなく、長野、日本、または世界にインパクト与える可能性を持った規模の計画に感じます。ただ目立つ訳ではなく、私たちの子孫が暮らしやすい世界に少しでもなるように、バトンを渡す様な計画になればと感じます。</p>	<p>いただいた意見のとおり、ただ目立つという考えでは、持続的な活用は難しいと考えます。また、公共事業というハード整備を創造しがちですが、重要なものは中身と考えます。その中身について、地元の活力を支える産業振興とともに、地元を含めた民間の担い手の自発的関与による機能提供につなげる必要があると考えます。</p>	B
17	-	計画の進め方に対して	<p>地元企業や、市民団体も事業に参画出来る様な会を中長期的に継続性をもって執り行う(定期的な勉強会や、ワークショップなど、オープンな場を設ける)</p>	<p>現在、地元の団体による勉強会やワークショップが開催されていることを把握しています。そのような活動の中からの提案について、地元の自発的関与につながる可能性を検討する必要はあると想定しています。なお、「自発的関与」と表現しているのとおり、要望に留まらず、自らが諏訪湖イベントひろばを舞台に事業を実施していく、参入するという意欲的な関与を期待しております。</p> <p>また、総合プロデューサーに関しても、行政機能と民間機能を結び付けるとともにひろば全体をまとめ上げる機能であると理解しております。今後具体的に設置の必要性を検討して参ります。</p>	B
18	-	計画内容に対して	<p>海外からも視察がくる様な他地域の好例を広げるアシストが出来ないか(「ごみ8割減の町」上勝町、「消費を目的としない集客」オガール(岩手県紫波町)など)</p>	<p>上勝町、紫波町等の事例は、行政間の情報としても把握しております。それぞれ人口規模や地域特性は違いますが、諏訪市においても成功モデルとなるよう検討が必要と考えています。</p>	B
19	-	全般	<p>諏訪6市町村のクラフト作家や一般の主婦の方々、障がい者施設、高校生などにより、販売や体験教室、飲食ブース、音楽やダンスの発表の場といった、イベントを実施してきました。その経験から、市民の発表(音楽や踊り、文芸など)の場としての機能も持った場所も設けてほしいと思います。特に科学技術館の様な多目的に使えるフリースペースが欲しいです。</p>	<p>ひろばにおけるイベントスペースは3,000㎡を上限とすると設定していますが、最終的な規模や構造は年間を通じた活用を検討して決めていくこととなります。その中には、市民による活用も含まれます。また、必要に応じて駐車場や緑地帯等の仮設活用も必要ではないかと考えます。市民の方による活用とともに、実態に沿った規模の整備が必要と考えています。</p>	B
20	77	第4章ひろば活用の基本的な考え方	<p>産業プロデューサーだけではなく、広場全体の総合プロデューサーを配置する必要があると思います。また、総合プロデューサーは諏訪地域に詳しい地元企業、もしくは住民になる必要があり、地元企業・観光客・諏訪住民のために心地よく使いやすい広場となるようプロデュースする必要があると思います。</p>	<p>総合プロデューサーに関して、行政機能と民間機能を結び付けるとともにひろば全体をまとめ上げる機能であると理解しております。今後具体的に設置の必要性を検討して参ります。</p>	B

21	113	第9章今後の方針	<p>該当ページがなかったため113ページとしましたが、諏訪湖イベント広場規模の再開が行政主導で今後の諏訪の中で行われるイメージがないので、将来をしっかりと見据えた開発が必要だと思います。具体的には2030年までのCO2の60%削減(長野県目標)や2050年までのカーボンニュートラル(国、県、諏訪市の目標)を本気で達成するための指標となる場所にしていただきたい。</p> <p>この目標は既存の住宅(古民家含む)や自動車、経済活動全てを含めての目標なので、基本的にはこれから建てられる建物(公共施設含む)は省エネ且つ創エネのZEHもしくはZEB基準であることが求められています。諏訪湖イベント広場の開発と付随して、諏訪市全体のカーボンニュートラル達成に向けてのロードマップを具体的に示していく必要が早急に(2030年は近いので)あります。そのロードマップの中で諏訪湖イベント広場の立ち位置がより明確になっていくと思います。</p>	<p>ひろばの整備、特に構造等についてカーボンニュートラル達成等への配慮は必要不可欠と考えています。また、産業振興という面でも、環境への配慮という視点は新たな市場開拓につながる可能性があると思定します。建屋の構造等詳細については今後の検討となりますが、計画にも「技術革新や環境への配慮といった新たな時代の流れを汲むことが必要」という旨の記載を今後の方針につけ加えていきます。</p>	A
22	113	第9章今後の方針	<p>諏訪地域の将来を担う場所だからこそ、諏訪地域内を中心とした企業で構成されることがベストだと思います。地域外からの大企業誘致では多少の雇用を生めるかもしれませんが効果が弱く、地元企業が育ち、強い地方都市実現のためには不可欠な要素だと考えます。</p>	<p>「地元の自発的関与を実現するための手法や条件についても引き続き検討していきます。」と記載しているとおおり、持続的活用という視点では地元の担い手が重要であると考えています。しかしながら、地域外企業の参画による開発の広がりといった可能性もあると考えます。地元と地域外の両方が効果的に力を発揮できることが理想と考えます。</p>	B
23	106	第7章事業スキームの検討	<p>PPPを実現していく、成功していくには、行政側がどれくらいのリスクをとり、民間と本当の意味で協業していくことが求められています。リスク回避のPPP、資金難からくるPPPではなく、PPPの本質的な強みを活かせるように、行政・民間、互いに勉強し合うような機会が公募の前であっても良いと思います。</p>	<p>PPP/PFI事業については、住民の理解も必要であるとともに、具体的事業公募に至る前に、リスク分担の考えも整理が必要と考えています。また、資金の観点からは、建屋等の規模にも関連しますが、行政の負担増加は市民の負担増加にもつながることから、取れるリスクの大きさも具体的検討が必要と考えます。今後、暫定利用や試行活用という段階を検討していますが、地域内外に関心をもたすためにはより一層の広報が必要になりますので、手法については検討いたします。</p>	B
24	71	第4章ひろば活用の基本的な考え方	<p>必ずしも市民の意見を取り入れることが大切だとは思いませんが、かなり意識の高い(関心の高い)市民でないと、諏訪湖イベント広場の内容を把握することが難しいと感じました。P71に記載されているワークショップも個人的に「参加した方が良いか」と確認したところ「参加しなくても良いですよ」と言われた経緯もあり、行政側がもっと積極的に市民と関わる機会を作る(従来のやり方では足りないと感じている)必要があると思いました。広報すわやホームページだけではなく(ホームページもリニューアルしてすぐ見辛いです)、時代にあった発信や募集の方法を検討してください。</p>	<p>持続的活用を考えた場合に必ずしも全ての市民意見を取り入れることは難しく、民間活力の導入を重要視していることから、担い手となる自発的関与ではなく、要望と捉えられる意見の取り入れは困難です。しかしながら、声の大きい方だけでなく、多くの住民にも関心を持っていただくことは必要かと思います。今後、暫定利用や試行活用という段階を検討していますが、地域内外に関心をもたすためにはより一層の広報が必要になりますので、手法については検討いたします。</p>	B

25	113	第9章今後の方針	<p>上諏訪駅から西口、諏訪湖までの連続性の話は資料の中でみれましたが、小和田地区～末広地区のことが触れられていないことが気になります。雑誌やテレビの特集でも取り上げられる機会が増えているこのエリアとうまく連携したエリアづくりをすることが効果的だと考えています。徒歩10～20分程度なので、立ち寄りたくなお店などがあれば観光客には全く苦にならない距離感ですし、外から見た諏訪の価値を高めるためには効果的だと思います。</p>	<p>今後の方針において、上諏訪駅西口とひろばとをむすぶエリアを中心とした検討の必要性を述べていますが、ひろばは諏訪圏の持続的産業振興が行われる拠点とも考えており、敷地内に留まらない、広域的な機能の広がりの可能性も含まれます。民間参入領域についても、今あるまちの機能との相乗効果による価値の創造や効果的運用の可能性はあると考えています。</p>	B
26	105	第6章 施設配置計画 2施設配置パターン	<p>ぜひ、諏訪ならではの施設にしていきたいです。他の自治体の成功事例や、人は集まるかもしれないけど諏訪っぽくないものではなく、ここの場所でしかできないこと、諏訪に集まっている人だからできること、そういう場所が地元で愛される場所になると思います。大手企業に任せず、地域で連携をとって、地域主導で、諏訪が誇りに思えるような場所を作りたいです。そのためにはカーボンニュートラル的な考えは今の時代の開発では外せません。今はまだ珍しいかもしれませんが、30年後、カーボンニュートラルが当たり前になった時にエネルギー負荷の高い施設の立場が危うくなります。ぜひ30年後も誇れる場所にしてください。</p>	<p>持続的に活用される場所とするため、類似事例等の参考にできる点は反映するとしても、諏訪市における特色を出す必要があると考えます。その実現に向けて、大手企業、地元企業、地域外企業等参画の意向があれば平等に可能性はあるものと考えます。また、エネルギー負荷の高い施設に加え、維持費の高い施設、修繕に高額費用が必要となる施設については、維持していくことが困難です。重要なことはソフト面になりますが、施設についても、見た目だけでなく長期的な運用という観点も必要と考えています。</p>	B
27	-	全般	<p>「諏訪湖屋台村」 できれば木造で、衛生的配慮もあって、それでいて雑多な感じで、尚且つ子どもも遊べて。年齢制限設けて、若い人の独立を推進するなど。年寄りが運営する屋台のエリアも設けても良い。飲食店のみならず手作り工芸品なども可。基本、外で食べられるオープンスペースだが、福岡の屋台のように簡易的に雨・風防があれば良い構造。 ふらーっと気軽に行けて、美味しく楽しめる場所になれば良いなあ、って思ってます。</p>	<p>市の負担においてご提案の様なものを整備することはありません。ただし、民間資金による民間参入領域の提案について、このような機能が含まれている場合には実現の可能性はあるかと想定します。</p>	B
28	66～109	全般	<p>まずは前提として、地元企業、地元住民の事業参画がマストではないかと思えます。まずは地元の声を置き去りにしない、しっかりと反映出来る体制作りが絶対に必要だと思います。プロジェクトの総合プロデューサーを立て、地元企業または地元住民がそれを担うべきなのではないかと思えます。</p>	<p>P113の今後の方針に「地元の自発的関与を実現するための手法や条件についても引き続き検討していきます。」と記載をしているとおり、地元企業や住民の参画も大きな力として想定しています。なお、「自発的関与」と表現しているとおり、要望に留まらず、自らが諏訪湖イベントひろばを舞台に事業を実施、参入するという意欲的な関与を期待しております。総合プロデューサーに関しては、行政機能と民間機能を結び付けるとともにひろば全体をまとめ上げる機能であると理解しております。今後具体的に設置の必要性を検討して参ります。</p>	B
29	66～109	全般	<p>今までによくある地方創生という文脈ではなく、グローバルな視点で商業エリアと捉えて開発を検討すべきではないかと思えます。SDGs、サーキュラーエコノミー的な考え方を反映した、これからの数十年の世界のスタンダードになるようなところまで視点を伸ばして計画を進めていく必要があり、それが可能な地元企業の参加は不可欠かだと思います。</p>	<p>民間参入領域として商業的視点の提案等が含まれている場合には、その実現の可能性はあるかと想定します。また、時代の流れに沿った考えを導入することの必要性があると想定します。その実現には地元の力も重要ですが、地域外の力を活用する可能性もあると想定しています。</p>	B

30	99	第5章導入機能・規模の検討 3-3宿泊施設	ホテルなどの宿泊設備は不要。キャンプ、オートキャンプ、車中泊スペースを備えた道の駅を提案する。貸出用のテントを備えることで災害時の仮の生活場所を兼ねる。非常食の備蓄をし、年に一度、備蓄の入替えと称して、試食イベントを開く。湧き水、温泉を引き、諏訪の豊かな自然をアピールする。	市の負担においてご提案の様なものを整備することはありません。ただし、民間資金による民間参入領域の提案について、このような機能が含まれている場合には実現の可能性はあるかと想定します。	B
31	90-102、15	第5章導入機能・規模の検討	他の地域や都市部にあるものや施設では、外からの観光客獲得は難しいと思う。諏訪市にある、実際に都市部からも人が集まる地域企業や、外との繋がりのある地元企業、まちづくりに関して実績のある地元企業も、この事業に積極的に参画してもらうことで、諏訪地域ならではのモノで、地域の人も外の人も楽しめる場づくりが可能になると考える。諏訪の強みを生かしていかなければ、地域創生に関して一過性の流行などに流されては長期に渡っての運営、後世に残していく場づくりはできない。また、長野県は気候非常事態宣言を出している特別な地域である。その宣言に則って、持続可能な、まちづくりのモデルとなるような場所でもある必要があると考える。新しい施設を建設するのであれば、その建設にともなう二酸化炭素排出量や、どういう仕組みであれば、排出された二酸化炭素はニュートラルになるのかといった要素も考えていく必要があると考える。	地方都市である諏訪市において、首都圏におけるモデルをそのまま導入していくことは考えておりません。他地域の成功事例についてもそのままの形で導入できるとも考えてはおりません。持続的な活用を考えた時に重要となることは、地元の自発的関与になります。その実現可能性や手法については今後検討していく必要があると考えます。また、今後気候変動といった環境面、技術革新による技術面等世の中の動きを捉えていく必要性は認識しています。建設する施設の機能や規模については確定しておりませんが、計画上にも「技術革新や環境への配慮といった新たな時代の流れを汲むことが必要」という旨の記載を今後の方針につけ加えていきます。	A
32	105,112	第6章施設配置計画 第8章事業実現化に向けた課題の整理	諏訪はものづくりだけの街ではないのでは？もっと広い視点で諏訪の魅力を見つけ発信できる、地元のプロデューサーをたてるべきだと思う。ものづくりに偏った方だと、それ以外のことにおいて安易に大手企業のお店を誘致したりして、まったく特色のないスポットになりかねないと思う。どこにでもある企業のどこにでもある施設ができて、足を運びたいとは思わないし県外から友人を呼ぼうとも思わない。地元住民のためであれば、圧倒的に不足している文化的価値に触れられる場所をつくってほしい。	諏訪市には工業の他に、歴史分野、観光、自然など様々な魅力があることは把握しています。その中で、現在の主要産業が工業ということは確かなことです。現在の諏訪市の都市基盤強化という面においても、産業の進捗がそれを支えています。また、工業も多くの業種があり、市場分野も数多くあります。産業振興機能を効果的に提供するにあたり、その幅広い産業分野を広い視野で取りまとめる産業振興プロデューサーという立場が必要と考えます。また、大手、地元、地域外問わず、ひろばの有効活用につながるものであればいずれも平等に参入の可能性はあると考えます。	B
33	105,112	第6章施設配置計画 第8章事業実現化に向けた課題の整理	いたずらにお金やエネルギーをかけてまで残すべきではないと思うが、だからといってあとかたもなく壊してしまうのはどうかと思う。残すものは残すべき。その上で今回新たに建てる建物はどれぐらい長く使えるのか、未来に残したいものなのか、維持するためのエネルギー負荷はどれほどのものなのか、きちんと先を見据え持続可能なエリアにしてほしい。	現在の建屋については、行政が多額の費用をかけて残すことはありません。民間資金により修繕から維持管理運営まで実施するという提案があった場合には、活用する可能性はあります。また、新築する建物についても必要に応じた建物機能の検討が必要です。今後の時代において、エネルギー負荷の検討も必要であると想定しています。	B
34	112,113	第8章事業実現化に向けた課題の整理 第9章今後の方針	全体的な意見になりますが、今この広い土地に施設や空間を作ることはいずれも諏訪市の未来にとって胸を張っていいねと思えるものでありたい。特に環境に配慮した建物、及び一つ一つの施設の取り組みも環境に配慮したものでありたい。サーキュラーエコミーを取り入れ、環境にも、我々人間にも、双方プラスでさらにその仕組みできちんと利益の出るようなものになりたい。地元企業や住民がたくさん参加できるものになりたい。美しい諏訪湖に山々がこの土地の魅力を伝えられる場でありたい。	環境への配慮は今後の時代において、考えなくてはいけない観点になるかと思えます。また、諏訪湖という貴重な資源についての活用については、市場調査においても民間提案がありました。長期的に地元の方に活用していただけるとともに、諏訪の魅力を表せる場所とする必要があると想定しています。	B

35	73	第4章ひろば活用の基本的な考え方 3.基本コンセプト	東バル跡地は諏訪の顔になるエリア。公的な施設になるのであれば、カーボンニュートラルや再エネ・省エネをしっかり盛り込み、「これからの生活」のモデルになるような施設づくりや運用を考えていく必要があると考えます。 まち・ひと・しごと創成基本方針2021のなかでも「地方創生と脱炭素の好循環」の実現への取り組みが言及されていて、産業振興・防災・医療・観光どの分野においても考慮されていくべきことなので、ひろばをモデルとして、諏訪エリアから全国へ波及するきっかけになるのが望ましいと思います。	施設の具体的設計はまだ先となりますが、その機能において環境への配慮は必要と考えています。また、国のまち・ひと・しごと創成基本方針2021において重点に据えられた新たな3つの視点にグリーン（地方が牽引する脱炭素社会の実現）というものがあります。世界的規模の話にはなりますが、今後地方自治体においても取組の重要性が大きくなることも想定しています。今後このように新たな動きが出ることも想定し、「技術革新や環境への配慮といった新たな時代の流れを汲むことが必要」という旨の記載を今後の方針につけ加えていきます。	A
36	102	第5章導入機能・規模の検討 5.導入機能・規模の一覧	軸となるのが産業振興とのことだが、市が投資主体となる施設をこれまでと同じ方式で新設しても、町の賑やかさや諏訪らしさが損なわれた雰囲気の建物が建ってしまうのではないかと思います。そういったことがないよう、産業だけでなくひろば全体をプロデュースする人を立てたほうが良いと感じます。 諏訪での日々の暮らしの中心地であり、観光地諏訪の中心地でもある立地と思うので、景観づくりはもちろん、運用にあたって継続的に諏訪を産業だけでなく多方面な視野で（まち・ひと・しごと創成基本方針2021でも言及される「ヒューマン」「デジタル」「グリーン」）構成していく必要がありますし、地域内の企業や住人がその役割をになっていくべきと思います。	施設の具体的設計はまだ先となりますが、建物機能や規模により費用も大きく変動していきます。必要に応じた機能とともに、建設から維持管理まで含めた費用を踏まえた設計が必要と考えます。産業振興機能を効果的に提供するにあたり、幅広い産業分野を広い視野で取りまとめる産業振興プロデューサーという立場は必要と考えます。総合プロデューサーに関しても、行政機能と民間機能を結び付けるとともにひろば全体をまとめ上げる機能であると理解しております。今後具体的に設置の必要性を検討して参ります。 また、持続的な活用を考えた時に重要となることは、地元の自発的関与になります。その実現可能性や手法については今後検討していく必要があると考えます。	B
37	90	第5章導入機能・規模の検討	ひろばの利活用、また、価値の創造が示されておりますが全体を通して一部に対する有利な流れや働きにはなって欲しくないと思います。現在まで検討委員会として関わって来られた皆様の意見は理解するところではございますが、大変失礼だとは思いますが視野の狭い部分も感じられます。市民が納得され、相対的に見て利活用促進される計画を望みます。 また、現在、諏訪湖周サイクリングロード等の整備が進む中、観光面においてはサイクリングのみクローズアップされていますが、古くからスポーツ団体など諏訪湖周辺などでスポーツを親しむ人たちが諏訪湖を活用した体験活動、それらに対する諏訪湖安全対策など努めてきました。諏訪市では総合管理計画において施設等廃止する施設もあり、今後の活動拠点が少なくなる観点からも配慮いただきたいと思います。コミュニティー・観光・医療（特に船舶を用いた湖上搬送）など、当該団体への理解をいただき、防災に対する取り組みもご検討ください。ニーズに合わせた理解を求めたいと思います。	当計画を策定するにあたり設置した専門委員会については、地元諏訪を舞台に工業、観光、商業、金融等各分野で活動されている方から委員を選出しております。その中では、特定の分野、一部の事業者により利となる検討はしておらず、市場調査からの可能性を重要視して計画を策定しております。 また、公共施設の廃止を含む再編については避けて通れない事となります。市民の方にも活用いただけるものにすると同時に、ニーズ、活用頻度や規模、維持管理といった費用面についても併せて検討が必要となります。 防災の観点については、この場をすべて建物で埋めるということではなく、駐車場や緑地帯といった空間にも価値を見出すことが、災害時の活用にもつながると考えています。	B
38	95	第5章導入機能・規模の検討 2-3イベントスペース	基本的に除却の方向で議論が進むと思いますが、振り返ると民間での活用として一番初めにカーフェスタの企画を実施しました。以降、民間レベルで活用が徐々に進んできました。当然、現在のまま活用することもニーズに合った利活用ができるわけですが、取り壊すことを前提に話が進むと思いますので、その間までの活用についてお願いしたいと思います。	現在建屋について、最低限の修繕を実施し活用しておりますが、建物の老朽化は進行しており、今後も長期にわたり現状での活用をしていくことは困難です。整備計画が策定され、事業者選定等が進むと建屋の取壊しになりますが、それまでの間は可能な限り現状同様活用をしていく予定です。 また、今後、暫定利用や試行活用により実現可能性の実証実験をひろばで実施する予定です。これについては、現建屋に依存しない活用を基本とする予定です。	B

39	112	第7章事業スキームの検討	DBO方式が採用されると思いますが、できる限り時間をかけて広く意見を募りコンペを実施していただきたいと思います。募集案内についても広く周知してください。ある意味では地元で賄っていたきたいものと、地元感覚では商売にならないものがございます。事業者選定への精査が求められます。合わせて特定の委員メンバーだけでの審議にならないよう強く求めます。	今後事業者を公募する段階において、広く地域内外に周知することは重要と考えています。また、地元の担い手、地域外の担い手それぞれに特色や強みがあると考えています。事業者選定方法については今後決定していきますが、透明性のある選定をする予定です。	B
40	113	第9章今後の方針	既に産業振興機能、民間参入領域、それらに向けた整備と項目が分かれておりますが、現在行われている諏訪湖周辺整備やかわまちづくり計画など、同時進行していく事業も計画していくこととなります。それらの整合性については、他団体や周辺地区への配慮が求められます。「日本一広い原っぱ」として担保していた貴重な土地の活用が「日本一狭い施設」とならぬよう、後世につけを残さない計画を宜しくお願い致します。	サイクリングロードを代表とする周辺環境整備、かわまちづくり計画等、周辺環境と関連した活用の可能性は十分にあると考えます。周辺環境として、諏訪湖という貴重な資源についての活用については、市場調査においても民間提案がありました。施設を整備することは目的ではなく手法ですので、魅力的なエリアとなるよう効果的な整備を目指してまいります。	B

対応区分	対応内容
A	計画案を修正・追加する。
B	計画案は修正しないが、今後の取り組みにおいて参考にする。
C	検討の結果、計画案には反映しない。